

校長室のガラスケースに昨年度の6年生（現中1）からの「卒業感謝の会招待状」を飾っている。3月2日の午後2時半の案内だったが、突然の臨時休校でできなくなった。2月29日にクラスだけでお別れ集会をしたのが、小学校生活の最後であった。

6年生にとっての3月は、学習のまとめはもちろんだが、友達や下級生との6年間をしみじみと振り返る期間でもある。その時間をあげられなかったのが口惜しい。「この新型コロナウイルスに世界中の大人たちが全力で立ち向かう。どんな方法で、どんな結末になるか、よく見ていてくれ。」と話したのが彼らと間近に話をした最後だった。彼らに誓ったように私たちは、教員の良心と能力を注いで学校再開の準備をしてきた。何度にも及ぶ「再開延長」のため息をつきながらも計画を練り直した。

残念だが、今年の6年生にも運動会の活躍をさせられなかった。かわいい1年生との対面もまだできていない。でも、いよいよ来週から全学年が登校してくる。このコロナ禍もまず階段を一段降りた。

3か月の間、命のリスクを負いながら働いたたくさんさんの大人がいた反面、コロナ感染者への差別、心ないデマ、国同士の仲違いなど醜い姿もあった。

去年の卒業生は私たち大人の「全力」をどう見ているのだろうか？

あの招待状は、まだしまわないでおこう。